

会議結果報告書

平成29年6月30日

会議の名称	平成29年度第1回志木市健康づくり市民推進協議会
開催日時	平成29年6月29日(木) 午後1時30分～3時30分
開催場所	志木市民会館 1階 103会議室
出席委員	山下和彦会長、小山博久副会長、鎌田昌和委員、渡部日恵委員、谷合弘行委員、日東明子委員、前野房子委員、谷岡正吉委員、清水正子委員、星野賢委員、新井弘委員、金敷禎子委員、木下武三委員、小松順子委員、大熊啓太委員、濱田好江委員、西和江委員、田代健委員、飯田順一委員 (計19人)
欠席委員	赤羽尚子委員、川崎善一委員、滝沢麻子委員 (計3人)
説明員職氏名	清水副課長、志田主幹(健康政策課) 金澤所長(健康増進センター) (計3人)
議題	(1) いろは健康21プラン(第3期)・志木市食育推進計画、 歯と口腔の健康プランの概要について (2) いろは健康21プラン(第4期)・志木市食育推進計画(第2期)、 歯と口腔の健康プラン(第2期)策定について (3) 自殺対策計画の策定について (4) その他
結果	別紙、審議内容の記録のとおり (傍聴者 0人)
事務局職員	豊島俊二(健康福祉部次長)、 今野美香(健康福祉部参事兼健康政策課長)、 清水裕子(副課長)、平田大輔、志田真由美、伴恭臣(健康政策課)、 金澤嘉子(健康増進センター所長)、貫井なおみ(健康増進センター)

審議内容の記録（審議経過、結論等）

1 開 会

2 委嘱状交付

3 副市長あいさつ

4 委員自己紹介

5 職員自己紹介

6 会長・副会長専任

7 会長・副会長あいさつ

8 議題

(1) いろは健康21プラン（第3期）・志木市食育推進計画、歯と口腔の健康プランの概要について

(2) いろは健康21プラン（第4期）・志木市食育推進計画（第2期）、歯と口腔の健康プラン（第2期）策定について

(3) 自殺対策計画の策定について

以上（1）から（3）まで「みんなで進める健康寿命日本一のまちづくり（第3期）」計画書、概要版から事務局より説明が行われた。

9 意見交換

（主な意見）

委 員：資料4の自殺統計の10万人当たりの数値ということだが、この数値について説明が欲しい。

事務局：自殺死亡率の単位は人数とかパーセントではない。人口10万人当たりの数値に換算したものである。

会 長：第3期の計画について、このキャッチフレーズは市民の皆さまが分かりやすいように決定したものである。

健康寿命日本一だと高齢者を中心としたものであり、子どもは入らないのではという意見もあったが、みんなで進めるということで、子どもも含まれるということになった。

我々の役割としては計画の策定、評価、推進の3本柱となる。推進は各団体が進めていくことになる。第3期の計画がどれだけ達成できるかという調査・評価となる。今回の第4期に関しても皆さんの活動を計画に盛り込み、それに基づいたアンケートを作りその評価へと繋げていきたい。第3期においては基本目的が3つあった。また、各種活動の紹介などもあるので市民への周知ともなる。また、地区ごとの特徴や健康課題を表や図など

を用いて分かりやすく整理している。第3期の委員からの意見や提案でこのような形になっているので、第4期でも意見を頂き盛り込んでいきたいと思う。

会 長：引き続き、委員長より志木市の課題について説明が行われた。

<主な意見等>

委 員：医療費を100万円以上払っているということだが、個人が払っているものか。

会 長：国保の医療費を分析しているので、国保の全額医療費ということになる。

副会長：国民健康保険の加入者は医療費が高くなっており、運営も厳しくなってきたのが現状である。重症化予防のための定期健診等の保険事業も実施している。最近、テレビなどで特定の食べ物が特定の病気を防ぐことになるなどの情報があるが、こういったことにも関心を持って会議に参加していきたいと思う。

委 員：非常に沢山の薬を飲んでいる方がとても多く、それらを飲まなければ生きていけないという錯覚を持っているお年寄りが多いので、時間をかけて説得して薬を減らすということをプライマリーケアで町の医者として行わなければいけないと感じている。

委 員：気になることとして、小学校で給食後に歯磨きをするという取り組みをしているが、中学校になると学校でしていないということなので、中学校でも歯磨きができるように取り組めないかと相談したいと思っている。

委 員：介護保険要支援1, 2が市町村の事業として国から移行しつつある。それについて福祉協議会としてどのようにお手伝いできるかと考えているが、町内会に補助金を出している中で、敬老会、世代間交流で高齢者と子ども達の高齢者施設などでの交流などがある。地域に出向いてコミュニケーションを生み出すことで健康づくりの一助になるのではないかと考えている。

委 員：母子保健推進委員としての活動は乳幼児などの健康診断などのお手伝いをしている。母子保健推進員は所属している地域の町内会長から推薦を受けているが、地域で妊婦と「こんにちは赤ちゃん」という訪問をしている。近所のおばちゃんと思ってもらい繋がりを継続し、必ずしも必要とする人ばかりではないが、孤立しているお母さんたちを繋げていきたいと思っている。

委 員：食生活改善推進員協議会では食育を通じた健康づくりのために相談して活動している。減塩が今年の広報1月号に市の健康づくりの大きな柱とし

て掲載されていたので、私たちの会でも塩分を控えめにということで活動を続けており、生活習慣病予防のための講習会等では地元野菜を沢山使って塩分控えめにすることを広め、市の健康づくりのために役立てればと思っている。

委員：町内会連合会では、世代間交流など補助金を活用しての活動を行っている。町内会としては町内の安心・安全のまちづくりが一番だが、町内会では共助を全面に押し出してイベントを行っている。イベントとしては盆踊りなどが多いが、地場産の野菜を安く提供するようなことをインセンティブとして各世代の参加を促している。今年からはお互いの健康を確かめられるような方策へと大きく踏み出そうとしている。今の話は私自身の町内会の話を見せて頂いたが、連合会としてもこのようなインセンティブをつけたイベントを大きく広げていこうと考えている。

委員：連合婦人会ではノルディックウォーキングのお手伝い、地区においては世代間交流、敬老会など行っている。市の各種行事のお手伝いというのが一番多い活動としてある。

委員：スポーツと健康の関連は非常に強いと理解している。体育協会では、競技スポーツからリクリエーションまで25種目の競技がある。子どもから年配の方まで幅広い団体に加盟して頂いている。中学・高校に関しては学校関係での動きとなるが、その後の社会人となる青年期との繋ぎが課題だと感じている。子育て中はなかなか運動ができないようなので、その時期にも運動が継続できるようなことを考えていきたいと思っている。

委員：老人クラブ連合会には約1500人の会員と28のクラブがあるが、実際に何かのイベントに参加できるのは3～4割で、参加者の平均年齢は80歳前後となっている。85歳以上ではなかなか外に出て来られない。また、いかに男性、特にサラリーマンだった人達を外に引っ張り出すかということが課題となっている。カラオケやグラウンドゴルフなど人気がある。いろいろと会っていると徐々に目つきが変わり、認知症が世間でも大きく取り上げられているが、本人や家族はそれを認識しているのかなど気になる。症状が軽いうちに対策を講じられるといいのではないかと考えている。

会長：歌うことは肺の機能を高め、肺炎予防などにも繋がるので、カラオケと肺炎予防を組み合わせるプロジェクトなど計画に盛り込めると面白いかもしれない。

委員：民生委員・児童委員では各自担当地区があり主に、高齢者や一人暮らし、障害者の方の見守りが仕事となっている。問題を抱える家庭に気付いたら

専門機関に結びつけ、その後の心のケアをするという役割がある。男性の一人暮らしについては先ほども話に出てきたように、閉じこもって表に出てこないということがある。調査の際など、元気サロンなどなるべく外に出るようにということを勧めている。包括支援センターや社協さんなどに相談して活動している。

委員：PTA連合会では、全体の取組はしていないが、志木中PTAとしては子どもから小学校では歯磨きをしていたのに中学校ではしていなくて汚い、という意見も出ている。PTAとしては家庭教育学級や年に一度の全体研修会を行っているが、何か取組をしてもいいのではないかと思う。先程の会長のお話の中で、Jリーグの選手の足の筋力アップとケガとの関わりの話なども子ども達は食いつくのではないか。何かツールを与えて頂ければ保護者の方も何かできるのではないかと思う。

委員：いきいきサロン事業では宗岡小学校の空き部屋を利用して朝9時から12時半まで、12時半から4時まで、絵手紙、太極拳、ダンス、ウクレレなどの活動を行っている。この運営に携わっている33名が全部女性で参加者は女性で男性はほとんどいないという状況にある。参加者は比較的固定されている。

委員：私立幼稚園協会志木支部では幼稚園全体で何かをやるということはあまりない。幼稚園だけで括ると3歳から5歳となるが、保育園を含めると0歳から5歳となり倍くらい的人数になるのでそこまでアプローチすることが必要ではないかと思う。今日、幼稚園で取り組みやすいと思った子どもの足の骨格形成で、幼稚園ではその正常・異常の判断ができないので各園に判断出来る人に廻ってもらう、または研修制度があれば判断はできなくても医療機関に繋げられるようになる研修を例えば園長が受けるなど、そういったことがすぐにできるのではないかと思った。文科省が出している運動の指針にはそのような見方はないので参考になった。また、行政、各種団体は市民からすれば自分とあまり関係ないというような印象を受けてしまうように思うので、それぞれの世代向けのキャッチフレーズを考えていきたい。今後その辺りの話ができればと思う。

委員：NPO法人クラブしっきーずでは、子どもも大人も障がい者も参加できるスポーツとレクリエーションのプログラムを行っている。市民に広く開かれたものとしては水曜日の朝、志木中の駐車場でラジオ体操を中心として30分のプログラムを行っている。8月は子供向けに活動日数を増やしている。会員向けには鬼ごっこなどの遊びを週2回、週末にもトレーニング要素も

あるプログラムを行っている。高校生から 20 代の若者向けには月 2 回ぐらい、市のインディアカ大会やソフトボール大会に向けての活動を行っている。車椅子バスケットでは障害のある方ない方含め、体を動かすプログラムを行っている。町内会や敬老会などへもリクリエーションの出前なども行っている。

委員：埼玉県歯科衛生士会では志木市歯と口腔の健康プランの最初のプランの時にも委員をさせていただいている。小中学生は行政への協力でいろいろな活動で参加させて頂く機会が多いが、妊婦さんや中高年の方たちへのアプローチはどうなったのだろうかとなっている。自分からは遠ざかっていたところがあり新たな課題として考えたいと思っている。

会長：肺炎予防、嚥下機能向上も歯科衛生士の仕事となるのでこのあたりもぜひ計画に盛り込んで頂きたいと思う。

委員：志木市には薬局が 20 店舗ぐらいあるがほとんどがチェーン化してしまい、薬剤師を派遣することができる薬局は 3、4 くらいしかない。地域包括ケアシステムを 2025 年までにやりましょうということになって、今、薬局はクリニックや病院の近くにあって、そこの処方箋ばかり受けているということが多いが、そうではなくてひとつの薬局でひとりの患者さんの薬を一元管理しようということが当面の目標になっている。これまで無駄な薬やダブって薬が出ていたのではないかとということが言われてきて、ここ 2 年くらいでポリファーマシー、残薬という言葉で具体的な基準が見えてきて、これが無駄だというのが可視化されるようになってきた。これらは大きな問題であり、責任が伴う部分なのでぜひご協力させて頂ければと思う。

会長：先ほどの話にもありましたが、薬をどう減らすか、将来のリスクをどう減らすか健康をマネジメントする拠点ともなる薬局として計画にも盛り込んでいきたいと思う。

委員：いろは健康 21 プラン推進事業実行委員会として初めてこちらに参加させていただいている。昨年のノルディックウォークに参加し、5 月の大会にも参加した。おかげで今回、人間ドックで全て A 評価となり、歩く事によって健康管理ができるので、当協議会を通じて志木市に恩返しをしていけたらと思う。

会長：皆さまから様々なご意見を頂いた。次回は皆さんの活動を計画に盛り込んでいくというビジョンと、併せて評価をしていくということについて議論していきたいと思うので、評価項目などのご提案をお願いしたい。

事務局：次回の会議は7月27日（木）午後1時30分から市役所3階の会議室
で行う。

11 閉 会